

モデルリスクコミュニケーションの実施について（案）

1 目的

化学物質による環境リスクを減らすためには、市民、事業者、行政等が化学物質に関する情報を共有して相互理解を図ること（リスクコミュニケーション）により、地域全体で化学物質の適正管理と排出抑制に取り組んでいくことが重要である。

そこで、事業者等による自主的なリスクコミュニケーションを促進するとともに、地域全体の化学物質対策に役立てることを目的として、モデルリスクコミュニケーションを実施する。

2 「モデル」としての位置づけ

- （１）事業者等が、自主的にリスクコミュニケーションに取り組む機運を高める。
- （２）化学物質に関するリスクコミュニケーションを行う際に参考となるモデルケースを作る。

3 主催

- （１）なごや化学物質リスクコミュニケーション懇談会
- （２）対象工場

4 対象工場

検討中

5 日時

平成 19 年 6 月～ 7 月頃 平日の午後 3 時間程度

6 場所

対象工場（意見交換等は会議室等）

7 参加者

立場		参加者
意見交換参加者 (15~20 名)	市民	地域住民（及び懇談会委員）
	事業者	工場担当者
	行政	懇談会委員
	ファシリテーター ¹	懇談会委員
	インタープリター ²	懇談会委員
事務局		市役所環境担当者、工場担当者
傍聴者（10 名～ 20 名）		ホームページ等で公募

1 中立的立場から議論を整理する司会進行役のこと

2 中立的立場で理解しにくい情報をわかりやすく説明する人のこと

8 内容

項目	内容	担当
オリエンテーション (15 分)	アイスブレイク（自己紹介等）、モデルリスク コミュニケーションの目的等の確認	ファシリテ ーター
工場の概要の説明(5 分)	立地条件、製造工程等について説明	工場
工場見学（60 分）	製造工程、排出抑制施設等の見学	工場
化学物質のリスクに関 する説明（10 分）	化学物質に関する工場の説明をスムーズに聞 くために、化学物質についてわかりやすく説明	事務局・イン タープリター
環境への取り組みにつ いての説明（20 分）	環境への取り組み（化学物質の話題を中心に） 等について説明	工場
意見交換（60 分）	工場の説明と工場見学を受けての意見交換	意見交換参 加者
アンケート実施	意見交換の感想やファシリテーター等の役割 に対する評価についてアンケートを実施	事務局

9 運営方法

- (１) モデルリスクコミュニケーションは、公開で行う。
- (２) モデルリスクコミュニケーションの事務局は、懇談会の事務局とモデル工場の担当者が行う。
- (３) 会議録（懇談会事務局が作成）や配布された資料は、メンバーの確認を得た上で名古屋市公式ウェブサイト上で公開する。

10 成果物

- (1) 意見交換等により立場の異なる主体同士が相互に理解を深めるとともに、今後のコミュニケーションのきっかけを作る。
- (2) 会議の内容やアンケート結果の公開等により、市域のリスクコミュニケーションの推進に役立てる。

11 スケジュール

懇談会事務局及び対象工場を中心として、必要時には懇談会委員やファシリテーター・インタプリターを交えて準備を進めていく。

H19 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
第5回懇談会					第6回懇談会は、7月～9月を予定	
← 参加者の決定						
		← 日程の決定				
		← プログラム、工場見学のコース決め				
				← 資料の作成		
						← 実施

名古屋市全体の化学物質対策

- ・化学物質の排出量（P R T R）の把握
- ・環境モニタリング調査 など

活用

リスクコミュニケーション

情報の整備 ¹

対話の推進 ²

場の提供 ³

市民・NPO

- ・示された情報を評価

懇 談 会

リスクコミュニケーションのあり方を検討
〔必要な情報や具体的な進め方について意見交換〕

事業者

- ・工場のリスクに関する情報を提供

学識経験者等

- ・技術的な助言

名古屋市

- ・地域のリスクに関する情報を提供

反映

モデルリスクコミュニケーション

意見交換会・工場見学

発信

事業者による自主的な
リスクコミュニケーション

発信

発信

市 民

化学物質への正しい理解を促進し、ライフスタイルの改善に取り組む。

事業者

環境リスクの低減努力、周辺住民との良好な関係の構築に努める。

名古屋市

行政施策（リスク評価、環境教育など）に活用する。

1 情報の整備

環境リスクを主体とした情報の整備

2 対話の推進

司会進行や情報をわかりやすく説明できる人材の活用

3 場の提供

相互に意見交換をするような場の設定